

5文庁第1522号
令和5年6月14日

各 都 道 府 県 知 事
各都道府県教育委員会教育長
各 政 令 指 定 都 市 市 長 殿
各政令指定都市教育委員会教育長
各 国 公 私 立 大 学 長
各 公 私 立 短 期 大 学 長

文化庁次長
杉 浦 久 弘

令和5年度国語問題研究協議会の開催について（通知）

文化庁では、国民の国語に対する関心を高めるとともに、国語施策の充実に資するため、毎年度、国語問題研究協議会を開催しています。令和5年度は、別紙開催要項のとおり、オンラインで開催します。

ついては、開催の周知及び参加希望者に対する御配慮をお願いします。一部時間帯のみの参加も可能で、登録者に対する後日のアーカイブ配信も予定しています。

なお、参加の申込みについては、参加者が各自で申し込む方式です。

※ 参加・視聴登録方法や本研究協議会の詳細は下記 URL を御覧ください。

URL: https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kyogikai/index.html



← こちらから
上記 URL を御覧
いただけます。

本件担当 文化庁国語課
国語調査官 町田 互
〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
TEL 03-5253-4111(代) 内線 2842
E-mail kokugoiken@mext.go.jp



令和5年度 国語問題研究協議会 開催計画

1 趣 旨

我が国の国語施策について周知するとともに、国語をめぐる諸問題を取り上げ、改善の方法等について研究協議し、国語に対する関心を高めるとともに国語施策の充実に資する。

なお、本協議会は、国の国語施策の一環として、その普及と理解の促進を狙いとしている。

2 主 催

文化庁

3 開催方法

オンライン開催及びアーカイブ配信

4 開催日

令和5年8月23日（水）

5 日 程

13:00	13:10	13:40	13:50	15:45	15:50
開会 挨拶	国語に関する 審議状況報告	休憩	シンポジウム	閉 会 挨 拶	

※上記日程は都合により変更することがある。

6 内 容

(1) テーマは「日本語をどう書くか」とする。

(2) 国語に関する審議状況報告は、文化審議会国語分科会における審議状況など国語施策について、開催協力県教育委員会の協力により実施された国語施策に関わる調査の結果も含め、文化庁担当者が報告を行うものとする。

調査内容は、文化審議会国語分科会の審議内容に合わせ、ローマ字表記に関するものとする。

(3) テーマについての理解を深めるため、有識者によるシンポジウムを実施する。

○ シンポジウム登壇者（五十音順・敬称略）

長岡 由記（滋賀大学准教授）

成川 祐一（共同通信社編集局企画委員）

森山 卓郎（早稲田大学教授）

司会進行：武田 康宏（文化庁 主任国語調査官）

7 参加者

参加者の範囲は、主として次のア～オに該当する方とする。ただし、国語に関心のある一般の方からの希望にも広く応じるものとする。

ア 指導主事及び幼児教育・初等中等教育諸学校の教職員並びに大学等の教職員

イ 社会教育関係者、図書館関係者、報道・出版関係者

ウ 国及び地方公共団体の職員で、公文書の作成指導又は広報資料の作成に携わる者

エ 学校教育及び社会教育に携わるボランティアメンバー

オ その他、教育や企業研修等に関わっている者

8 参加・視聴登録方法

文化庁ウェブサイト（下記 URL）に示される参加申込方法（令和5年6月発表予定）に従って、本人が直接文化庁に申し込む。

http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kyogikai/index.html

9 その他

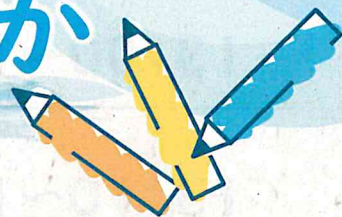
国語施策に関する説明については、上記文化庁ウェブサイトを示すリンク先でテーマ別の紹介動画を公開する形で実施する。

○ 国語施策の紹介動画

- ・ 国語施策について
- ・ 「敬語の指針（答申）」
- ・ 「常用漢字表（内閣告示）」
- ・ 「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」
- ・ 「分かり合うための言語コミュニケーション（報告）」

令和5年度 国語問題研究協議会

日本語をどう書くか



令和5年

8月23日 水

13:00~15:50

オンライン開催 (+登録者へのアーカイブ配信)

情報機器の普及で、誰もが発信者になれる時代、日本語の書かれ方にも変化が見られます。

現代社会において「日本語をどう書くか」について改めて考えてみませんか。



国の国語施策にも関わる、各分野を代表する
有識者3名を迎えてのシンポジウムや
国語に関する審議状況報告などを行います。

主催 文化庁

※ シンポジウムは13:50~

シンポジウムの登壇者(五十音順、敬称略)



長岡 由記

滋賀大学教育学部准教授。専門は国語科教育、文字教育。
共著に、「新しい教職教育講座 教科教育編①初等国語科教育」
(ミネルヴァ書房)、「新たな時代の学びを創る 小学校国語科教育
研究」(東洋館出版社)、「国語科教育学研究の成果と展望Ⅲ」
(溪水社)等。国語教科書の作成にも携わる。

武田 康宏 (シンポジウム進行)

文化庁主任国語調査官。
「常用漢字表の字体・字形に関する指針」「公用
文作成の考え方」等の
取りまとめに関わる。



成川 祐一

共同通信社用語委員長。
「記者ハンドブック 第12版、13版」(共同通信社)の作成に中心
となって携わるなど、新聞の用字用語に精通。また、新聞用語懇談
会のメンバーとして「新聞用語集2022年版」の作成に携わる。



森山 卓郎

早稲田大学教授。京都教育大学名誉教授。日本語学会理事。
編著書に「日本語のく書き方」(岩波ジュニア新書)、「コミュニ
ケーションの日本語」(同)、「あいまい・ぼんやり語辞典」(東京堂
出版、編著)、「ここからはじまる日本語文法」(ひつじ書房)、「旺文
社標準国語辞典 第八版」(旺文社、監修)等。国語教科書の作成
にも携わる。



プログラム表・参加登録方法は裏面を御覧ください。

プログラム

8月23日 水 13:00~15:50

13:00~13:10	開会挨拶
13:10~13:40	国語に関する審議状況報告・ ローマ字に関する意識調査 (福島県・佐賀県の各学校で実施) 結果報告
13:40~13:50	休憩時間
13:50~15:45	シンポジウム
15:45~15:50	閉会挨拶

プログラムは都合により変更になる場合があります。

「国語問題研究協議会」は、昭和25年以降、国語に対する関心を持っていたくこと及び国語施策の充実に資することを目的とし、毎年度開催してきました。我が国の国語施策についてお伝えし、国語をめぐる諸問題について、改善の方法等を研究協議しています。

令和3年度からはオンラインで開催しています。学校の国語科教育に携わる方ははじめ、国語に関心のあるどなたでも参加可能です。

参加登録

令和5年7月上旬から、文化庁ウェブサイト(下記リンク)にて

■ 詳細について、また参加登録は、以下のリンク先からお願いします。

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kyogikai/index.html

問合せ先 文化庁国語課(国語問題研究協議会担当)
TEL:03-5253-4111
MAIL:kokugoiken@mext.go.jp

